

エスチユアリ

Estuary 024

～いしかり砂丘の風資料館だより～

展示資料の ひみつ

リターンズ

この狛犬は、資料館1階の「石狩弁天社と鯨様」のコーナーに展示されています。高さ22cmで石製です。これは石狩弁天社内に江戸時代に奉納されたものを借用展示しています。

狛犬というのは神社などの境内にあり、魔よけとされています。ほとんどの場合「阿（あ）像」「吽（うん）像」の一对になっています。スケッチは「吽像」の方です。胴体には「庄内酒田柏屋久左衛門舟中 上乃り九兵衛 天党船」と墨で書いてあります。この意味は「現山形県酒田の柏屋久左衛門の舟（天党船）の船頭九兵衛（が奉納した）」だと思われます。

天党船（てんとうせん）は「天当船（てんとせん）」などとも呼ばれ、300石積み以下の小型運搬船のことです。新潟県佐渡相川では、長さ24尺（7.2m）、幅5尺5寸（1.7m）ぐらいでゴザ帆、三丁櫓、二櫓の船足の速い舟だったと記録されています。本州では、近海の運搬や弁財船・北前船から荷を小分けして運ぶ役割をしていたようです。

しかし、この狛犬の墨書を信ずるとすれば、千石船と称される北前船のほかに小型の船も石狩あたりにまで来ていたと考えることができるでしょう。

石狩弁天社の狛犬

高さ 22cm
時代 江戸時代
石狩弁天社 所蔵



また、狛犬は緑がかった凝灰岩を彫刻したものです。このような石は北海道の海岸部で家の土台や石像、墓石などによく見られるもので、福井県の笏谷石（しゃくだにいし）といわれています。なお、この狛犬は今では薄れていますが頭を墨で黒に、目は銀色、口は赤、胴体の一部は金色に塗られていたと考えられ、かつては華やかな像だったようです。

先日、浜益区の浜益神社境内で大きな狛犬の前足の間に、これと同サイズの笏谷石の狛犬があるのを見つけました。風化が激しく詳細は不明ですが、これも本州の船乗りが奉納したものなのでしょう。◆

（石橋孝夫 いしばしたかお）

海の歴史

海に鉄をまくと…

～前回「氷の中に大気の世界」のつづき～

南極の氷に閉じ込められた空気を分析した結果、大気中の二酸化炭素（CO2）は、10万年ごとに増減していることがわかりました。寒い時代（氷期の最寒期）がやってくると、現在の3分の2まで減ってしまうのです。その間、CO2はどこにどうやってに潜んでいたのでしょうか。

まだはっきりした解答は得られていませんが、有力候補のひとつは、海の中のちいさな生命です。

植物が光合成をするとき、必要とする元素（栄養塩）がいくつかあります。その代表は、窒素、リン、カリウムの3つです。それは陸上の草木でも、海の植物プランクトンでも同じ。海では栄養塩が多いところと少ないところとの差がはっきりしていて、多いところではプランクトンが大繁殖し、それを狙って魚も集まってくるためによい漁場となっていたりします。しかし一部の海——南極海、アラスカ湾、赤道域などでは、栄養塩がとてたたくさん含まれているのに、植物プランクトンはあまり多くありません。その原因は——実は、「鉄」不足なのです。

鉄は葉緑素を構成する元素の1つで、上述の3大栄養塩に匹敵するほど光合成の際に重要です。陸上では岩石や土壌の中にたくさん含まれているので、足りなくなることはまずありません。しかし、海の中では鉄はすぐに海底に沈殿してしまうため、太陽光が届く海の表面にいる植物プランクトンにはうまく利用することができないのです。

じゃあ、海に鉄を撒けばいいんじゃない？ 大胆にも、

そう考えて実行した人がいました。

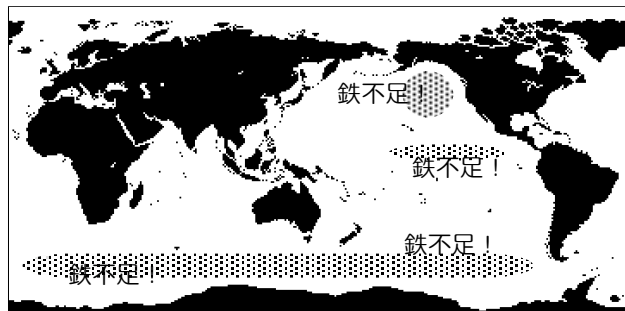
アメリカの海洋化学者マーティンたちが、3大栄養塩はふんだんにあるが鉄不足である海の代表として、赤道太平洋で鉄化合物の粉を撒いてみたところ、植物プランクトンはぐんぐん増殖し、光合成によってCO2も減少したそうです。

実は10万年ごとにやってきた氷期に、この実験と同じ現象が大規模に起きていたのではないかと、という説があります。氷期に寒冷化が進むと空気中の水分が減るために陸地が乾燥します。また赤道と極地との寒暖の差が激しくなるために風が強くなるので、陸地から大量の塵や埃が発生し、海へと降り注いで鉄分を供給します。そのために氷期の海では植物プランクトンが大繁殖し、その光合成によって大気中のCO2が生物の体に取り込まれた、というのです。

これをうまく利用すれば、もしかしたら現在のCO2の増加に歯止めをかけることができるかもしれません。マーティンの計算では、南極海に30万トンの鉄を撒けば、現在人類が1年間に排出しているCO2の半分を除去できる、といいます。しかし実際は、この効果はどれくらい続くのか、環境への悪影響はないのか、など大きな問題も多く、まだまだ現実的ではありません。◆

（志賀健司 しがけんじ）

鉄不足の海（Duce and Tindale, 1991をもとに作図）



小さな一粒

五月より一ヶ月間ほど、「砂と砂丘」というテーマ展が行われました。

サハラ砂漠、ハワイのグリーンランドビーチ、沖縄の星砂、宜野湾の砂と、普段あまり見ることもない珍しい砂や、石狩浜の砂を顕微鏡でのぞき、そこに広がる世界に、お客様は大いに惹きつけられたようでした。特に、身近な海水浴場の砂が、とてもきれいな岩石や鉱物の一粒一粒で構成されていることに驚かれました。その光景に、小学生の頃、グラウンドで陽の光に照らされてきらきら光る粒を宝石だと夢中で拾い集め、ポケットに入れていた自分を思い出しました。（これは後で洗濯をする母親に叱られる原因にもなりましたが…）

石狩浜をよく見て歩けば、石炭やメノウ、琥珀などが流れ着いています。運がよければ、自分だけのお気に入りに出会えるかもしれません。お天気のよい昼休み、久しぶりに散策してみようと思っ

（倉雅子 くらまなこ）

夏の講座・展示

石狩大学で、イチからイシカリ！

石狩の自然や歴史を学芸員がわかりやすく解説する、連続講座「石狩大学博物学科」がスタートしました。すでに「石狩動植物学」「石狩地球科学」が終了。8月5日の第3回では、午前中に「勾玉づくり教室」（別に申込が必要です）も開催されます！

第3回	8/5	石狩考古学	申込受付中！
第4回	9/2	石狩歴史学	8/6より受付

- 時間 13:00～14:30（各回とも土曜日）
- 場所 石狩市民図書館 視聴覚ホール
- 対象 高校生～大人
- 定員 各回50人（先着順、前回の受講者優先）
- 費用 無料
- 申込 電話で資料館へ

体験講座

勾玉づくり教室

まがたま

古代の装身具、勾玉。自分の手で作ってみませんか？資料館のボランティアや学芸員が作り方を教えます！

- 日時 8月5日（土）10:00～12:00
- 場所 石狩市民図書館
- 対象 小学5年生～大人
- 定員 50人（先着順）
- 費用 400円（材料代）
- 持ち物 鉛筆、レジ袋（大きめのもの）
- 申込 7/16より電話で資料館へ

7月
受付

札幌オリンピック、おぼえてまあが？

～昔の石狩の写真、札幌五輪資料をいただきました～

3月14日に札幌市の石川清熊さんから、昭和20年代の石狩市本町地区の写真をいただきました。一般にまだカメラが普及していない当時の写真は珍しく、貴重なものです。

4月8日に市内花川北の鹿野稔さんから、札幌オリンピック関係資料をいただきました。資料は、当時の公式ガイドブックや日仏英の3ヶ国語で書かれた電話帳、各競技の公式プログラム、1972年に札幌で開催されたIOC総会のメダル、各国のピンバッジなど、本や記念品など幅広い内容となっています。

これから機会を見て公開したいと思います。石川さん、鹿野さんありがとうございました。



はまます郷土資料館 特別展 浜益ニシン年代記

近世、「鱈（ニシン）は魚にあらざ蝦夷地の米」とされ、サケと並んで本州向け製品の代表格でした。ニシンの千石場所であった浜益の昔が、今、蘇ります。

- 期間 8月1日（火）～9月30日（土）
- 場所 はまます郷土資料館
石狩市浜益区浜益77-1
10:00～16:00、月曜休館
- 入館料 300円（中学生以下無料）

8月
開始

体験講座

化石のレプリカをつくる

アンモナイトなどの化石から、実際に博物館がやっている方法でレプリカを作ります。本物そっくりにも色も塗ろう！

- 日時 8月19日（土）13:00～17:00
- 場所 いしかり砂丘の風資料館
- 対象 小学4年生以上（大人も可）
- 定員 12人（先着順）
- 費用 500円（材料費）
- 申込 8/6～8/16の間に電話で資料館へ

8月
受付

石狩海浜植物保護センター 企画講座 シップ・望来の自然を学ぶ

化石や石油、海岸草原の植物などを観察し、この地域の自然の魅力を発見します。保護センターと資料館の学芸員がご案内します。

- 日時 9月9日（土）9時～15時頃
- 対象 小学校高学年以上、定員35人（先着順）

8月
受付

※申込方法などの詳細は、海浜植物保護センター（0133-60-6107）にお問い合わせください。

風呂敷包みの中身

本町の中島さんの蔵の整理の手伝いをしていたら、大きな風呂敷に包まれた端布（はぎれ）の山と敷物が出てきました。聞くと不要とのことなので、早速頂いてきました。何度も洗濯して乾燥させ、広げてみたら敷物2枚と端布が100点ほどありました。

敷物の1つは藍染めの小さな布をつなぎ合わせたパッチワーク。もう1枚は藍染めや緋の小さな布をつなぎ合わせた上に前面を太い綿糸で刺して作った刺し子の敷物でした。

布の特徴から明治のもので、居間でカーペット代わりに使われていたと想像されます。中島さんの先祖は越後佐渡出身で、明治時代には呉服（絹物）、太物（木綿、麻）をはじめ、手広く商売をした石狩随一の商店でした。今我々が見れば裕福な家であるのに、こんな端布を寄せ集め敷物にしなくて



も、と思います。しかし、裕福でも「質素儉約」の時代で、ものを大切に使うことが徹底していたことをうかがわせます。2点の敷物は、デザイン的にも優れ、明治の女性のセンスの良さも伝えてくれます。

また、端布は絹も含まれていますが、大半は木綿です。面白いのは柄で、基本は格子、縞、緋ですが、一枚一枚変化に富んでいます。この3つの柄は、江戸時代から続く伝統的ものですが、もともとはインドや東南アジアから日本に伝わったということです。◆

(石橋孝夫 いしばしたかお)

※紹介した敷物と端布は、資料館1階に展示中です。7月末までの予定。

増える“へえ”の数

資料館で働かせていただけるようになってから約二ヶ月が経ちました。まだまだ学ばなければならぬことばかりで、模索中の毎日を送っています。いろいろなお客様が来られる中、時には展示物について説明を求められることもあるのですが、それが専門的なことだったりすると、ついたじろいでしまいます。学芸員の方が出てくると、ついでに、内心お客様と一緒に「へえ〜」なんてうなづいてしまうこともしょっちゅうです。

それでも何か新しいことを一つ覚える度、少し賢くなったような気がして新鮮な気持ちになります。こういう気分を味わうために皆さんここにいらっしゃるのかな、などと思っています。今後もお客様と一緒にたくさんなことを知り、わすかでも喜びを共有できるように努力していきます。◆

(原田祐希 はらだゆき)

編集後記

今年の4月から、資料館のスタッフが少し変わりました。いつもお客様と接する受付には、大坂さんによって最若手、原田さん。事務室で資料館を支える上田さんも、本庁から異動してきました。さらに嘉山さん、高村さんの2人が、文化財整理作業に加わりました。展示室奥の開きっぱなしのドアの向こうで仕事していますので、こっそり覗いてみてください。(K)

■最近の「いしかり博物誌」(市広報に連載中)

- ☞第76回：明治時代のチラシ広告一引札(5月号)
- ☞第77回：国蝶オオムラサキが糖む森(6月号)
- ☞第78回：25枚の短冊(7月号)

<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp> →いしかり博物誌

エスチコアリ No.24

いしかり砂丘の風資料館

開館時間 午前9時30分～午後5時00分
休館日 毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始
入館料 200円(中学生以下は無料)、団体料金160円(15名以上)
交通 中央バス札幌ターミナルより石狩行き乗車、「石狩温泉」下車、徒歩1分(石狩温泉「番屋の湯」となり)

2006年7月16日 発行

いしかり砂丘の風資料館
 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4
 TEL/FAX: 0133-62-3711
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp
<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/>